

D-8 とは、D-8 のこれから

理事長 木村戦太郎

これまで何度かご紹介したように、今様々な領域で変わるべき方向と方策が模索され、JID周辺の諸団体からも連携や共同研究の呼掛けが多くなっています。厳しい経済状況が続く、衆知を集め知恵を出し合わないで次の展望が開けない時代が来ているのです。今回取り上げるD-8の活動もその一つであり、JIDの未来につながるものとして、重視する取り組みです。そこで、これまでの経過をご報告してこの活動をご理解頂き、会員各自の問題として一緒に考えご提案頂きたいと思っています。

D-8は経済産業省の呼掛けで開催された「デザイン委員会」を契機として発足しました。D-8とは、デザイン8団体が協調して主体的にデザインを捉え、社会との関わり方を模索する為の「議論の場」と考えて下さい。

今D-8では、デザイン集団として、社会に何をどの様に発信し、どう活動すべきかを模索しています。理由あって専門領域に分かれた現状が、必ずしも社会的認知を得ていないことに、危機感を共有した結果です。これまで各々の分野で個別に活動して来た8団体が、共通の目的を持って連帯し活動しようとしています。

●デザイン委員会のスタート

デザイン委員会は一昨年末に経済産業省（当時は通商産業省）の呼びかけで始まりました。メンバーは同省デザイン政策チームと社団法人格を持つデザイン8団体幹部、オブザーバーとして（財）日本産業デザイン振興会、（財）国際デザイン交流協会、日本デザイン事業協同組合によって構成されていました。

第1回会議は平成12年11月26日（木）に開催され、JIDからは私と秋山理事・峰尾事務局長が参加し、他団体もほぼ同様の人員構成でした。経済産業省から（三和総研現・UFJ総研作成の）下記項目のアクションプランが示されました。

- 1) 「イベント」参加 2) 「コンサルタント」対策
- 3) 「中小企業関連団体」対策 4) 「メディア」対策
- 5) 「国際交流」対策 6) 「地域経済活性化」支援
- 7) 教育／ビジネストレーニング
- 8) その他（流通、IT等）
- 9) 推進体制の検討

このアクションプランは、低迷する日本経済と公益法人見直しなど、行政の一環として提示されたものです。公益法人であるデザイン8団体が、デザインを通じて産業界、特に中小企業・地場産業などに果たし得る役割を検討し、結果としてデザイン（デザイナー）の活性化に繋がる具体策を策定しようとするものでした。

説明を受け、質疑応答を通じて私が感じた当惑は、協会の組織・運営に、会員の賛同を得る形でこのプランを

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2002

No.218

5・6

「目次」

● D-8 とは、D-8 のこれから	1
● プロモーション委員会からの報告	3
● 国際交流委員会からの報告	3
● 現代若者気質調査	7
● 『MY CHAIR』を創るin上海レポート	8
● 国井喜太郎賞を受賞して	9
● 富田卓二さんを偲ぶ	10
● 平成13年度第3回理事会報告	11
● 平成13年度第4回理事会報告	12
● 九州事業支部事務局就任にあたって	14
● JID NEWS 関東	15
● JID NEWS 中部	15
● JID NEWS 関西	16
● JID NEWS 九州	18
● 21世紀の「新会員に聞く」	19
● 新入会員の紹介	20

どう組み込めば良いのか。さらに、8団体の合意と連続（業務配分や委員の選任法など）をどう計れば良いのか判断が付かない事でした。このことは、他団体幹部も同様に感じていたようです。又、討論を通じて各団体幹部のアクションプランのとらえ方、デザインに対する認識や価値観に差があることも浮き彫りになりました。議論が噛み合わない、歯がゆい展開でした。

しかし考えて見れば、これまでデザイン8団体幹部が共通のテーマについて一同に会し、議論した機会はなかったのです。議論が噛み合わないことよりも、この議論の空白にこむしろ衝撃を受けたのでした。経済産業省の問い掛けに答える以前に、まずデザイナー同士の議論を深めるべきだと、痛感したのでした。

会議終了後に声を掛け合い、一緒に昼食をとりながら、デザイン8団体による会議開催を決めました。取り纏めは、日本デザイン団体協議会の幹事団体である(社)サインデザイン協会が担うことになりました。

○「第1回デザイン会議」は、13年1月16日に行われ、提示されたアクションプランに日本デザイン団体協議会としての対応策について検討。8団体としては、共通のデザインテーマを持ちつつ、各協会の状況を踏まえながら積極的に活動を行う方向で合意しました。

○その後「デザイン委員会」と「デザイン会議」が毎月交互に行われ、3月の「デザイン会議」では、デザイン団体としてアクションプラン9項を整理して

- ・産業界に対する広報活動
- ・産業界、地域活性化支援
- ・デザイン教育の推進

の3項を中心に活動する方向で合意しました。

○4月に開催された「第3回デザイン委員会」では、各団体を中心に、各団体が行っている事業の実施状況を各会長・理事長から報告し

1. 社団法人としてのミッション(使命)について
2. アクションプランの内8団体が共通し連携できること
3. アクションプランの内複数団体が連携できること
4. 各団体独自の事業 などについて検討しました。

○5月に行われた「デザイン会議」では8団体としての具体策、体制づくりについての検討を行い、共通のフィールドとしてワーキング部会「D-8」を立ち上げ今後の意見を調整する場とすることに合意。この結果を、

○5月29日開催の「第四回デザイン委員会」で「D-8」

を立ち上げたことを経産省に報告。

経済産業省からは、公益法人改革についての資料(情報公開など)が配布されました。

●6月29日「第一回D-8会議」開催

「D-8」構成メンバーの確定、設立主旨、活動体制などを検討。設立主旨のたたき台の提示と内容の検討。

○7月24日「第二回D-8会議」開催

経済産業省デザイン政策チーム3名、中小企業総合事業団1名、全国商工会連合会2名、三和総研1名

- ・中小企業総合事業団、全国商工会連合会との意見交換
- ・各8団体会長・理事長より各々の団体の紹介・説明

○9月の「第三回D-8会議」では

- ・産業界との関係に於ける具体的活動内容の検討。
- ・村興し物産展、消費者モニター制度の活用など検討。
- ・「D-8」活動目的の検討。
- ・可能なサービスパッケージ構築の可能性について検討。

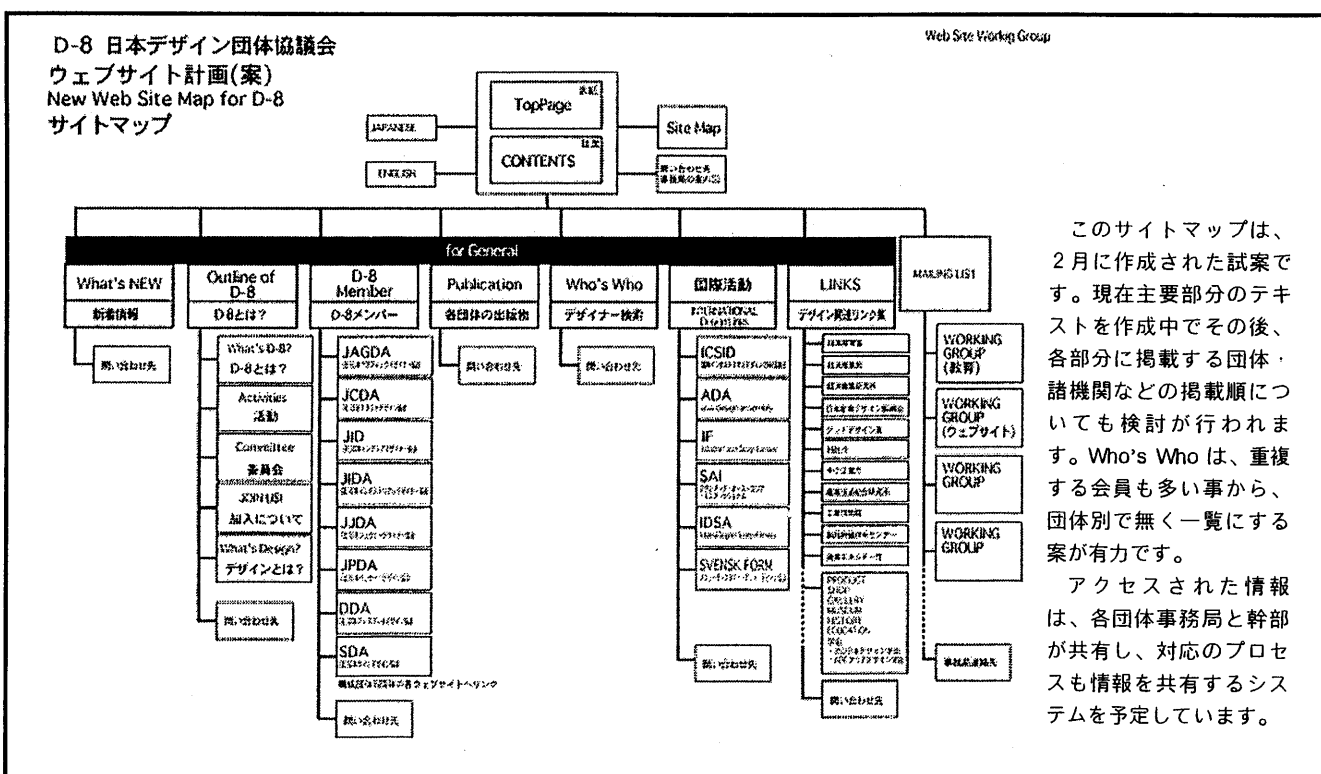
○10月の「第四回D-8会議」では

1. 広報委員会 2. 交流委員会 3. 総務委員会の、三つの委員会を設定し活動方針の検討。

- ・コアメンバーによるWG設定し具体的提案体制を合意。

○11月「コアメンバーWG会議」開催

- ・中小企業関連及び全国商工会関連に関して具体的活動の可能性に検討。
- ・「D-8」の運営や業務・課題と役割の検討。
- ・ワークショップ、モデルケース、教育プログラムの可能性について検討。
- ・具体的に成果のある活動を目指す各団体の業務に影響があることや、経費・組織が曖昧と判断。
- ・個別対応では「D-8」としての相対的活動になり



にくい為、再度活動の方向を検討する。

○11月30日「第五回D-8会議」開催

コアメンバー会議の検討報告に基づき活動目標の再検討。活動目標を具体的プロジェクトから、デザイン政策提言主体とした方向へ活動内容の変更を合意。

☆12月27日「コアメンバーWG会議」

- ・具体的活動の場合、場所、資金、人の問題で各団体で
の合意獲得が困難との指摘が大勢を占めた。
- ・上記に関連しどのような問題解決があるか検討。
- ・有力な手段としてウェブサイト開設について検討。

○14年1月「第六回D-8会議」

- ・「D-8」のウェブサイト開設の方針決定。
- ・活動目的を個別的支援から、大きな視点による活動に
方針変更し合意。

この後2月9日のWG会議、2月21日「第七回D-8会議」でウェブサイト立ち上げの体制、サイトマップ内容の検討が続けられ、内容作成委員の設置などを決定。4月の「第八回D-8会議」でウェブサイト内容を検討。

その後もウェブサイトの検討は続けられ、現在下にしたサイトマップの「D-8とは」「デザインとは」などの文案作成がWGによって行われています。

このD8 HPは、8団体の負荷を軽くして「D-8」のデザイン情報を社会に発信します。様々な領域から広くアクセスされる様、方策が検討されており、本年中頃までの立ち上げを志向しています。

昨年夏にまとめた「D-8」設立主旨八項目を掲載します。

■「D-8」設立主旨 13年07月24日確認

「D-8」とは、経済産業省が所轄するデザイン職能8団体で構成メンバーのミッショングループである。

「D-8」は、日本の産業界との継続的コラボレーションを通じ、広くデザインという視点から中小企業及び地域の活性化に貢献することを目的に、平成13年6月に活動を開始した。

1. 「D-8」は、デザインによって日常生活に関する物的、精神的豊さをつくる。
2. 「D-8」は、産業界への支援を通じ、デザイン領域の拡大とデザインビジネス領域の拡大を目指す。
3. 「D-8」は、文化性、社会性、経済性の基盤に立ったデザイン活動を行う。
4. 「D-8」は、中小企業の振興、地域の活性化を支援し、デザインによって広く産業界に貢献する。
5. 「D-8」は、活動内容の伝達や、最新情報の提供に努め、デザインの社会的認知を高める。
6. 「D-8」は、デザイン教育を通じて、デザインが果たす社会的機能の周知徹底、普及を図る。
7. 「D-8」は、日本のデザイン情報を世界に発信、国際的な交流を図る。
8. 「D-8」は、直接的商売を目的としない。

会員プロモーション委員会からのご報告

『インテリアデザイナーとつくる住まい〜

スケルトンインフィルによる集合住宅への提案』展

会員プロモーション委員会 展覧会企画担当：酒井正人

2月14日から3月5日までリビングデザインセンターOZONE 6階リビングデザインギャラリーにて、JID主催・都市基盤整備公団+リビングデザインセンターOZONE後援による展覧会『インテリアデザイナーとつくる住まい〜スケルトンインフィルによる集合住宅への提案』展を開催致しました。この展覧会の企画は、都市基盤整備公団により実施された公団住宅のインテリア提案コンペにJID会員が多数入選している事から、そのコンペ及び入選作品の報告を兼ねて新たな会員プロモーション活動として進められました。公団が開発したKSI（公団型スケルトンインフィル）住宅をモデルにインテリアデザイナーが考える住まいづくりを提案する事で、OZONE来場のお客様にJID及びインテリアデザイナーの職能や役割を幅広くアピールする事を目的としました。

公募により15名の提案者と13名のワーキンググループメンバーが集まり開催準備が進められ、展覧会開催中は2000名ものお客様が来場されました。また、開催中シンポジウムや住まいづくりのコンサルティングを行い多くの相談を受けるなど、改めてインテリアデザイナーと住まいづくりについて高い興味と関心をもたれている方が大勢いる事を再認識でき、会員プロモーションとして効果を発揮できる結果となりました。

今回の企画を生かし、今後またできるだけ多くのJID会員に参加して頂き、会員プロモーションに効果のある展覧会等を企画してまいりたいと考えております。

出展者・ワーキンググループ・後援企業の皆様にはこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

(展覧会出展者／敬称略)

秋山修治・岡部文絵・大野敬二・小池瑠璃子・佐藤栄次・酒井正人・白石勝彦・信夫正巳・長岡貞夫・中田重克・新妻勝之・萩原多恵子・平井美蔓・村元俊子・山本基観代

(シンポジウム講演者／敬称略)

岡部文絵・中田重克・白石勝彦・新妻勝之・村元俊子・村口映子・山本棟子／司会・丸谷芳正

国際交流委員会からの報告

藤村盛造

国際交流委員会では平成13年度最後の第5回JID meet the World を3月29日（金）午後6時半よりガラス造形作家 安河内敦子さん（JID会員）の個展会場、銀座

「画廊るたん」で開いた。安河内さんは文化庁派遣芸術家在外研修員として昨年9月から11月までドイツへ行かれ、そのときの体験談と滞在中のパブリックアートやデザインの見聞記を「ドイツ ベルリンの風」としてお話しして戴く事となった。

安河内さんの個展会場で開かせてもらったので会場の都合上、人数に制限があり、一般訪問者と会員の区別がつかず委員の対応で皆様に、もしご迷惑をおかけしたならこの場をかりてお許し願いたいと思います。

安河内さんのトークショーではドイツのステンドグラスの伝統的な素材づくりから現代建築にアートを吹き込むステンドグラスのデザインが光の変化とともに多様なインテリアを表現するモチーフとして現在、尚盛んに様々なところで使われているヨーロッパの伝統の豊かさを感じさせる内容の濃いお話であった。

ガラスという素材を現代建築に活かす巧みな金属支持材や構造材の発明は伝統的な自然光をいかに内部に取り入れるか、ステンドグラスの感性と技術を追い求めたドイツ・イノベータ達の現在の下地となっていたに違いない。最近のベルリンのパブリックアートやデザインではある規模以上の建築を建てる場合一定の予算をアートに使うことが条例で決められており、また行政サイドから

の補助金があるなど、芸術、とりわけ創造性に対して敬意を払うドイツ社会の伝統は、バブルが弾けると芸術・文化もウヤムヤになる日本との伝統文化の格差を感じさせた。いずれにしろステンドグラスは建築とアートの融合が可能で積極的にモダンアートとしても採用されている。

会の開催にご協力戴いた画廊「るたん」にも感謝いたします。終了後、近くの銀座サッポロにて参加者10名ほどで、ドイツらしく生ビールで懇親会をもった。

会員の皆様 銀座で個展は如何ですか？

画廊「るたん」はあらゆるジャンルを問わない、今後芸術家やデザイナーに会場を提供し交流を深めていただく機会を作りたいと、中島画廊主は所属の建築美術工芸協会などダイレクトメールを出して安河内さんの場合、来場記名、約200名との事。支部会員の皆様も気軽に問い合わせてください。料金の相談にも応じるとの事です。

10日間 会場費30万円 広さ約20㎡

問合せ先 画廊「るたん」中島まで
東京都中央区銀座6-13-7 新保ビル2F
TEL/FAX (03) 3341-0552

国際コンペに応募して世界へ羽ばたくチャンス IFIからのEメールニュース

IFIは現在事務局が南アフリカにあります理事長はスウェーデンの会長アンダーソン氏で名古屋での大会に来られた日本通のデザイナー。

今回新しくなったEメールニュースを送ってきました。皆様も独自に各国のWEBを覗いてください。中には興味の対象となる国際コンペの募集や教育論、社会環境造りなどにもブツつかるかもしれません。そして貴方を新しく、目覚めさせてくれるかも知れません。

またEメールアドレスも同時に書かれていますのでご意見やご質問などは直接やって、大いに交流を図ってください。

原文コピーを掲載しておきます。

IFIからのE-Mailニュース情報

今後「Eニュース」として各国へ配信される。

国際委員長 藤村盛造



安河内さんの個展会場にて



安河内さんを囲んで、JID参加者の面々

001
IFI the international federation of interior architects / designers
e-news
P O Box 91640, Auckland Park, 2035 Johannesburg, South Africa
Tel: +27 11 726 1952 Fax: +27 11 726 8892
ifichris@ukonnet.com kawa@warps.org

Dear Friends

The IFI has embarked on a change in the communication of e-news. A new banner has been designed by Robin Turner of design Center in Johannesburg and the e-news will now be a bi-monthly communication medium.

Deadlines for the IFI e-news will occur on the 10th and 20th of each month for all contributions and notifications. Please send these via e-mail to the IFI Office at ifi chris@uskonet.com

As IFI members and friends we rely on your information for others to see and respond to.

CONTENTS

IFI IN TALKS WITH THE UIA

IFI YEARBOOK REMINDER

WORLD INTERIOR DESIGN DAY

ICIS

CALENDAR OF EVENTS

IFI SUPPORTERS

UIA meeting in Torino イタリアトリノでの国際建築家会議出席の報告

March 21- 24

A breakthrough in collaboration with The International Union of Architects, UIA After previous contacts during the fall of 2001 I was invited as the President of IFI to participate in a meeting with the International Union of Architects in Torino.

The meeting was excellently hosted by OAT, the Torino Architects Organisation. Participants were the Presidents from countries in Europe including Eastern Europe.

Andreas Gottlieb Hempel, who is the president for Region 1, the European part of UIA was heading the meeting. Andreas Hempel is also 1st Vice-President of UIA and will most probably become the next UIA president.

The address and message from IFI was about the relationship between architecture and interior architecture and that we should seek ways of exchanging ideas and information between our organisations. The delegates were given good information about our organisational structure and our programs including the working groups and Pro Vitae. The proposal of collaboration was very well received and the delegates wanted this matter to become a serious proposal for not only the regions that attended this meeting but for the whole of UIA. Andreas Hempel and Secretary General of

UIA, Jean Claude Riquet, who also attended the meeting, promised to support our request for the Council of UIA. From now on IFI resident and IFI Secretary-General will have continuous invitations and information from UIA. IFI will also put UIA on its mailing list.

UIA will have their next World Congress in Berlin July 22-29

The theme, which is most interesting also for Interior Architects, will be "Resource Architecture".

www.uia-berlin2002.com

Olle Anderson - IFI President

IFI YEARBOOK REMINDER IFI年鑑発行について

Dear IFI members,

The IFI yearbook 2002 is planning to be published in June/July 2002. The IFI yearbook 2002

aims to promote the organization internationally and public awareness of interior design as an important aspect of everyday life and to give recognition to deserving projects and designers. It works to encourage and promote professional standards and ethics among interior design practices operating worldwide.

All National Members are requested to send in their National Award-winning Lighting

Design / Furniture Design / Interior Design Projects (ONLY the Winners' projects are accepted) completed between 1 July, 2000 to 31 December, 2001 to the IFI yearbook 2002

organizing committee not later 15 May 2002. All these National Award-winning Lighting

Design / Furniture Design / Interior Design Projects will be published in the IFI yearbook 2002.

Pierre Lo

IFI Board Member 2001-3

Mobile: (852) 94634588

Fax: (852) 25980848(BR)

E-mail: pierrelo@hkida.org

WORLD INTERIOR DESIGN DAY ワールドインテリアデー

31 MAY 2002

Theme: GRAVITY テーマ: 重大さ について

Workshops, seminars, discussions, improvisations

Lots of photos to the IFI Office by post or e-mail

!!!!Celebrate Interior Architecture/ Design!!!!

ICIS www.icisfoundation.org

ICIS, the International Centre for Creativity, Innovation and Sustainability was founded in 2001 by graphic designer Karen Blincoe. The centre's mission is to equip professionals, decision makers, leaders and academics in both the private and the public sectors with knowledge, methods and tools to innovatively meet and manage the changing environmental and human needs in the 21st century.

The centre will offer educational and informational services, create physical and virtual networks between professionals, businesses and educational institutions for cooperation in a variety of fields. The main target audience will be the creative professions, design, architecture, crafts as well as advertising and ICT. ICIS aims to be mainstream and multidisciplinary. Other related sectors will therefore also be targetted, i.e. engineering, science, business, sociology and psychology.

Autumn 2002 will offer a series of master classes titled 'The Changing Paradigm of the Creative Professions':

18-22 August

Sustainability: Standards, methods, drivers and trends;
Introducing sustainable values, solutions and tools

1-7 September

Sustainable consumption - a realisable concept?

8-14 September

Visions, Legends and Storytelling;
Exploring new openings for innovation and creative thinking.

6-12 October

IT and the Changing Workplace.

20-26 October

Cities of the Future (1);
Societal challenges versus the city and its architecture.

5-10 November

Intuition and Spirituality in Business.

17-23 November

Cities of the Future (2);
Sustainable architecture and city development in the Scandinavian countries.

29 November - 4 December

The Corporate Revolution; The Role of Design in the Process of Globalisation.

More information about ICIS, the persons behind, and the master classes is available on ICIS' website www.icisfoundation.org, where you can also register

And you are welcome to contact ICIS on centre@icisfoundation.org

ICIS Foundation

Hornbgaardsvej 2

3100 Hornbaek

Denmark

Phone +45 49 70 43 64

Fax +45 49 70 43 73

www.icisfoundation.org

centre@icisfoundation.org

CALENDAR

Beyond Media

2-5 May 2002

6th International Festival of Architecture in Video

Organised by iMAGE

Florence, Italy

tel: +39 055 66 63 16

fax: +39 055 62 41 253

image@architettura.it

www.architettura.it/image

"Ernesto Caiazza" Promosedia Competition:

Ideas for the Design of a European Chair

3 May 2002

Deadline for submissions

Organised by Promosedia

Udine, Italy

tel: +39 0432 229127

fax: +39 0432 228672

caltpr@tin.it

www.promosedia.it

European Way(s) of Life

European design exhibition

4-12 May 02

Organised by SAD

Paris, France

Endorsed by ICSID

tel: +33 1 43 59 66 10

sadexpo@easynet.fr
www.sad-expo.com

Beijing International Design Exhibition
23-28 May 02
Beijing, China
tel: +86 10 84 64 76 34
fax: +86 10 84 64 76 34
tidic@A-1.net.cn
www.bjtidi.com

How to Raise Awareness of Design
17 June 2002
Icograda Regional Meeting
Organised by Icograda
Brno, Czech Republic
tel: +32 2 344 58 43
fax: +32 2 344 71 38
secretariat@icograda.org
www.icograda.org

Identity/Integrity
18-19 June 2002
2002 Icograda International Conference
Organised by Icograda
Brno, Czech Republic
tel: +32 2 344 58 43
fax: +32 2 344 71 38
secretariat@icograda.org
www.icograda.org

Exploring Doors Conference
21 Jun 02
Theme: The Future of Design and Technology
in Secondary Education
Organised by Design Museum
London, United Kingdom
tel: +44 20 8952 0912 ext. 222
lloyd_ansell@yahoo.co.uk
www.designnow.org/conference.htm

Design for Europe
International Design Competition
15 Jul 02
Deadline for registrations
Organised by Interieur Foundation
Kortrijk, Belgium
tel: +32 56 22 95 22
fax: +32 56 21 60 77
interieur@interieur.be

www.interieur.be

4 Generations - Generations Show Their Design-
Collector's Pieces
Exhibition
16 Jul-25 Aug 02
Organised by Design Zentrum Bremen
Bremen, Germany
tel: +49 4 21 3 38 81-0
fax: +49 4 21 3 38 81-10
thiele@designzentrumbremen.de
www.designzentrumbremen.de

IFI Supporters

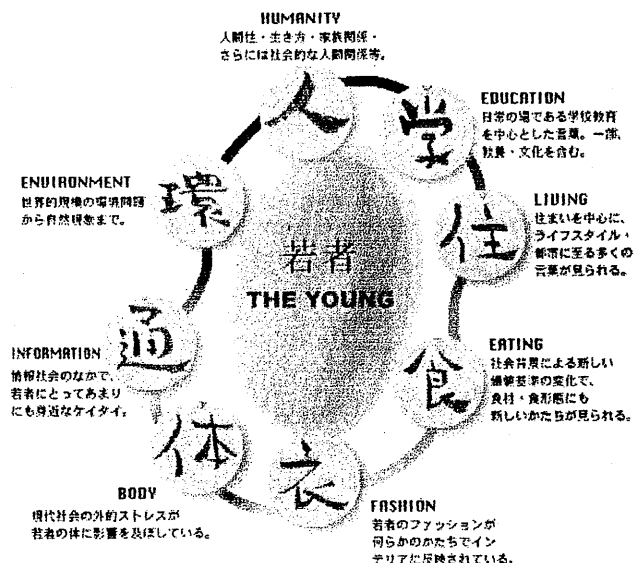
FAGERHULT, LUXO, HANSSEM, ICC KOREA, HERMAN
MILLER JAPAN, SEONGNAM CITY KOREA, FORBO

「現代若者気質調査」

JID本部教育研究委員会Bグループ

今日いわゆる「17才現象」に見られるように、若者の様々な行為が社会問題として取り沙汰されています。急速な時代変化と今日の厳しい社会環境の中で、人の行為と極めて関係が深いインテリア領域において、若者たちの変化が今日のインテリアの世界に、どのような影響を及ぼしているのだろうか。その事が委員会研究テーマの素朴な出発点でした。

まず、私達は客観的な現象を抽出するために、一般新聞をその情報源としました。概ね2001年の一年間、ランダムにデザイナーの目で、若者とインテリアを結び記事を抽出する作業を続けました。その他にも多くの情報源がある中で、これは極めて一部の情報であり、もちろ



ん全てを言い表わしてはいません。しかし、これは現実の現象であり、シーンとして存在する事実です。

次に、記事に見られる「言葉」を整理する過程で、8つのグループに図式化しました。これについては、また別な視点から分類する事も当然考えられます。今回の、私達委員会の作業は、ここで終わりです。当初から何らかの結論を出す目的はなく、現象を抽出し、提起する事が研究のテーマでした。提起された内容を各自が、どう受け取るかは自由です……。

今回の調査を通じて、若者を取りまく現代の日本社会が、多くの問題を抱えていると同時に、新たな生活文化の方向性を感じました。

一方、今まで我々が近代と称してきたものは、多くは欧米の由来のものでした。従って、欧米の文化によって教育されてきたとも言えるでしょう。しかし、もし欧米の文化に迎合する事なく日本本来の要素（風土）の上に欧米の近代を接木できたら、我々の生活内容はずいぶんと、独自のものになったのではないのでしょうか。インテリアデザインはある部分、この接木の作業なのですが、デザインの途中でこの要素が欠けていたのではないのでしょうか……。今回の一年分の記事が、この接木の接点となれば幸いです。

今回収集した資料はJID事務局で、4月末より閲覧可能です。また、当教育委員会では、次年度は全国からのJID会員の参加も募集中です。興味のある方は是非ご連絡下さい。

教育研究委員会Bグループ委員：須長壮太郎（担当理事）
藤原啓克（委員長）岩崎真理子、岩澤晴彦、橋本勇治、
田中美知代、小野寺勉

『MY CHAIR』を創るin上海レポート

本部事業委員会副委員長 石川 尚

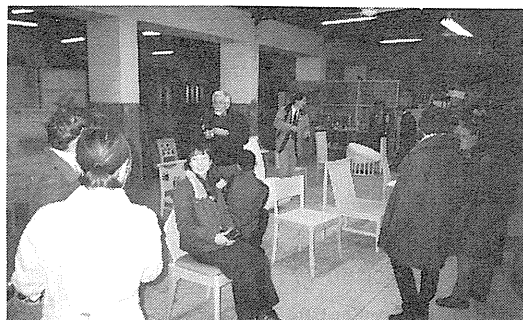
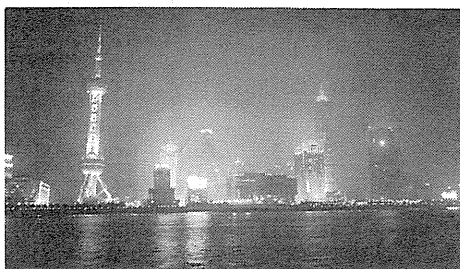
昨年11月～12月にバンタンデザイン研究所で実施された3回の東京セミナー「マイチェアーのデザイン&設計作業」を無事終了して、いよいよ第四回目は上海セミナー……上海では製作工場で椅子の仕上げ指示と最終確認が目的である。

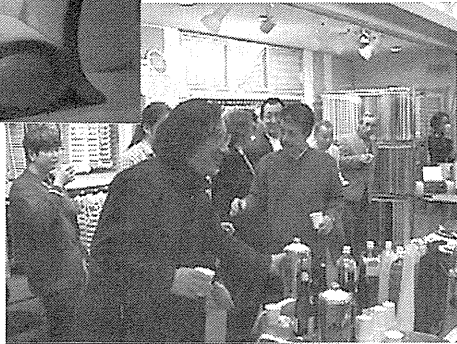
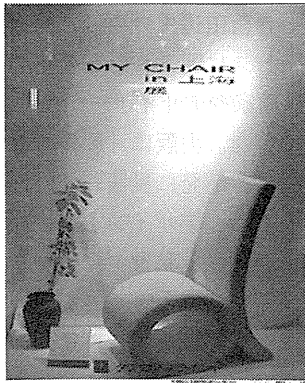
日方団長代行以下参加メンバー&講師&ワーキングスタッフの『MY CHAIR』軍団は総勢24名。2月26日、成田発中華航空で上海虹橋空港に夕方到着……入国手続きをすませた軍団を出迎えいただいた当協会の浅野さんご対面。外気は東京とさほど変わらないが、漢字表示の街のサインに一同目を奪われながらホテルに直行、その日はチェックイン後ホテル界隈を闊歩する。

翌27日、専用バスで椅子製作工場「上海華東木器社」に行く。工場の迎賓室で今回製作段取りで協力していただいた当協会の吉田さんと再会。吉田さんから沈社長、沈副社長、工場長の紹介があり、沈社長の挨拶ならびに会社の説明が行われた。上海セミナーの一つ、沈副社長の「中国家具事情」のお話が興味深かった。中でも中国には大きく分けて3ヶ所の家具製作地域がある……北部は大連、満州など……なら、カバ、などの資源が豊富。量産メーカーが多い。ソリッド材のもの……学習机、婚礼家具が中心、真ん中は上海……100～150キロに20000社があり、昔から職人が多い……大半が宮大工。特注製品が中心。南部は広東、……台湾、香港などのデザインを製作。中国の輸出ナンバー1で南の労働力の存在が大きい。アメリカ用……突き板等の製品が中心。質議応答では『日本では商社の担当者との打ち合わせが多く、デザイナーとの直接打ち合わせが必要では?』との意見が印象的であった。

さて、今セミナーのメインイベント『MY CHAIR』とのご対面である。工場敷地の一番奥の棟に向かい、各々自分の作品とご対面! 皆、歓喜の雄叫びをあげる。それもそのはず、スケッチや図面の椅子の原寸大との出会いである。製作行程としては2/3の椅子であるが、生地張りやカラーリングなど最終仕上げをの段階を待つものばかり。日本から持参したコダワリの生地やディテールの詰めを白石、藤川両講師と熱心に行く。工場の製作もかなり協力的に対応していただき、参加メンバーは大満足。吉田さんのやつれた表情も安堵の微笑みが浮かんでいた。その他工場の製産ラインや製産商品などを視察しながら、工場で過ごした一日である。

夕食は昼食を用意していただいたお返しに沈社長、副社長を迎えウエルカムパーティー。阪井理事の乾杯の音頭でパーティーがはじまり、製作した椅子談義で盛り上がる。この日の満足感は参加メンバーはしっかりと胸に焼き付いているだろう。





28日は上海で仕事をされてる浅野さんが上海市内を案内。ユニークなアンティーク家具ショップ、建材、家具センター、新天地、リッツカルトンホテルなど、単なる市内観光では行けないホットな場所を紹介していただいた。感謝、感謝！

3月1日は自由行動の日……そして2日のお昼前に上海を発ち午後3時過ぎに成田に到着……事故もなく総勢24名の『MY CHAIR』軍団は各々満足の表情で解散。

帰国後、感激仕上りの18脚の椅子を見た余韻から……これは有志をつのって『MY CHAIR』展示会を！との意見がワーキングスタッフから持ち上がった。

4月16～27日の12日間、銀座のタチカワブラインドのショールームにて（社）日本インテリアデザイナー協会企画・主催の椅子制作プロジェクト『MY CHAIR in 上海』展を開催。

エントランスのショーウィンドウには『d』の文字がそのままデザインされた椅子『d-CHAIR』野口 サンティ 温世さんのデザイン。コンセプトは見たり使ったりすることで人が楽しくなるソファ……たしかに視覚的に制作者の楽しいおもいが伝わってくる椅子である。ショールームの中に入ると17脚の椅子たちが正面を向いている。2ヶ月前上海の工場で見えたあの椅子たちは工場を出荷してコンテナで海送、税関を無事通過してこの会場に到着。上海ではまだ未完成であったが、アノ椅子たちは指定、または持参した生地が張られたり、フレームにカラーリングされたり、この会場で制作者本人が最後の仕上げをして完成した。各々制作者と作品名、制作者のコンセプト（制作意図）を表記したパネルも用意された。

展示された椅子たちのほとんどはデザインがはじめてとは思えない発想があり、なんの先入観もない、気負いもない視点が世の中に出回っているモノとはひと味もふた味も違うデザインを生み出すのだろう……とあらた

めて感服する。

ただブランド品や既製品を買うのではなく、自分の欲しいもの、こだわったモノ、家族や空間や生活スタイルにあったモノを自分でデザインする……今後このようなニーズが増々ふえてくると予感する展示会であり、JIDのやるべき事業の一つとして今回のプロジェクトの手ごたえを痛感する。

参加事業委員メンバー：阪井担当理事／金杉委員長／石川副委員長／日方副委員長／岡部委員／小野里委員／菅野委員／土橋委員／安田委員／（賛助会員）石島委員／藤本委員／前防委員／（オブザーバー）西岡委員／（講師）白石先生／藤川先生／（上海現地協力）吉田会員／浅野会員

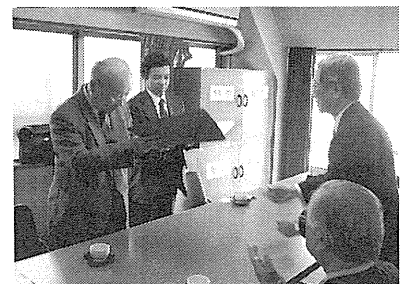
中村圭介氏（名誉会員） 第28回国井喜太郎産業工芸賞を受賞

去る3月15日、財団法人工芸財団において、当協会名誉会員中村圭介氏が一永年の家具デザイン活動、デザイン団体の育成と共に、近代日本の家具史の研究・著作を通じデザイン発展に尽くした功績により、第28回国井喜太郎産業工芸賞受賞されました。ご本人はもとより当協会にとって大変名誉なことであり、皆様にご報告いたします。（事務局）

国井喜太郎賞を受賞して

関東支部会員 中村圭介

この度思いがけず、第28回国井喜太郎産業工芸賞をいただきました。この賞には芳武茂介先生がデザインした径7cmの鋳造の賞碑がつい



いていました。それは手造りの地肌に、簡略化した喜の字を浮き上がらせたもので立派なクラフトの作品でした。

私は1940年東京府立工芸学校木材工芸科を卒業して以来60年家具デザインやインテリア関係の仕事をし、家具博覧の創設や家具復元もしました。果たしてこの賞価値する仕事を残せたか反省する次第です。

私は百貨店育ちのため依頼があればどんなデザインもする習性が身につきました。その点国井先生が初代所長になった工芸指導所（産工試の前進）出身者のデザイン

は違います。

豊口克平・剣持勇・芳武茂介など、門下から多数のデザイナーが育ちましたが、皆産業工芸という分野にありながら一貫したポリシーを貫いた作品を多く残されました。振り返って自分の仕事を見ると、戦後の物不足に答えるため“大量に安く”という方向で妥協し、フラッシュ構造（タイコ張り）の収納家具を造りました。今になって思うと、大量の粗大ゴミを生み資源の浪費となりました。

これからのデザイナーは資源のローテーションを考えて、永く使える本物の家具をデザインしていただきたいと思います。

またJID・JCD・SSSなど業界の求めに応じて社団を組織しデザイナーの地位向上も計りましたが、行政に依存したので幾つかの団体に分かれてしまいました。

こうした面でも、デザイナーが主体性を持って統一することが望まれる段階になっているのではないのでしょうか？また、インテリアデザインを自立した学問とするには、確りした近代史が必要です。

そこでインテリアデザイン史（近代）を書き始め、上巻「文明開化と明治の住まい」を2000年4月に理工学社から出版し現在市販されていますが、下巻の「生活改善運動やモダンデザイン」は執筆を終えましたが、建築の外観と違い、撮影者が持つ著作権の使用料も高くなり本として販売するのが困難になりました。そこで図版を減らす一方、「日本学術振興会」に補助金の審査を申請しています。今まで、インテリアのまとまった歴史書がなかったのはこうした事情によるものとわかりました。

また著作の過程で国会図書館等に通い、建築・大工・建築学・家事・家政・産業（木工・テキスタイルほか）・住宅・家具・工芸美術・船舶・車輛・博覧会などの明治から昭和前期の索引の中から、インテリア史の参考になる単行本1300冊と関係雑誌40種を選びリストを造りました。これらは決して完全なものではありませんが、この著作に伴う副産物でインテリア学会などを介し実費頒布し、研究者のお役にたてばと思っています。

受賞にあたり今まで仕事が出来たことを感謝するとともに、近況をお知らせし、ご支援のほどお願いします。

富田卓二さんを偲ぶ。

山口 道夫



富田さん、覚えておられるでしょうか。

1950年代の末に東京から大阪に来た私は、自由美術家協会の絵描き仲間から同協会の富田さんを紹介された。

当時大阪の地下鉄は天王寺から西田辺までやっと開通したばかりで天王寺以南はフェンスに囲まれた露天路線を走っていた。このあたりには画家やデザイナーが多く、富田さんも私もその辺に住んでいた。大阪に「創作の部屋」という広範囲なデザイン活動を活発に展開していた会があり富田さんは家具を中心としたデザインをしていた。誘われて「創作の部屋」に参加し、私はテキスタイル部会を作った。毎年各デパートで展覧会をし、なぜか阪神百貨店で日本室内設計家協会展にテキスタイルの作品を出展したりもした。富田さんがJIDに入り、カネボウの佐野さんを通して知り合った樋口さん共々に勧誘され私もJIDの会員になった。1970年代の初めの頃である。デザイナーも画家と同じく作品を展覧会で多くの人々に見せる必要がある、という富田さんの持論に賛成し、兵庫県立近代美術館、近鉄百貨店等々で次々と展覧会を行い、立派な名簿を作ったりもした。当時富田さんはJIDの展覧会男と言われていた。緻密で正確な計画書や図面、議事記録が翌日には配られる几帳面さと実行力を持ち積極的に推進された。日本インテリアユニティー設立に誘われこれも参加した。このころは店舗の設計、椅子、収納家具、照明器具等の企画デザイン、商品化を多数行い、1/100図面で端数の1ミリを省略しないので有名であった。自動車の免許を一緒に取ろうと誘われたり、八ヶ岳の麓に共同で土地を買って別荘を作ろうと誘われ車を飛ばして現場を視に出かけたり、ゴルフにも誘われた。八尾に引っ越されて旧家の実家を改装し温室を建てたり裏の広い農園にイタリア製スプリンクラーを設置し精密な図面に基ずく栽培計画にそって野菜や果物を作っておられたのも富田さんらしい。「今年のイチゴは特に旨い」取に来いと言われ、頂きに行ったら珈琲を入れてもらいながら、裏に引っ越してこないかと誘われもした。

十年前JIDの名誉理事になり、特に数年前に奥さんを亡くされてからは、絵画製作に打ち込み、ポルトガルやスペインに出かけてはスケッチをし、「やはり絵はいいよ」と油の大作や新しい技法のパステル画をライフワークとされていた。最後にお誘いを受けたのは昨年で、「新作家美術協会」に入らないかという熱心な誘いであったが、私の主旨にあわないとお断りした。いろいろと、よくお誘いをいただきました。

葬儀の日が、ギリギリ迄描かれた作品の上野の展覧会初日であった、通夜の夜アトリエのバレットの乾いていない絵具が感慨一入で印象的であった。富田さんの書いた案内状の字が手許に残った。少しでも強引なお誘いもう来ない。オシヤレで万年青年の富田さん安らかなれ。

平成13年度第5回理事会報告

①会議名：平成13年度第5回理事会

②日 時：平成14年1月24日（木）10:30～12:30

③場 所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー8F

④出 席：（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種、山崎 晶

（理 事） 秋山修治、泉 修二、川上玲子、
吉良ヒロノブ、佐々木恵子、
須長壮太郎、関 里繪子、
中川帛子、長岡貞夫、山本棟子

（委任出席） 喜多俊之、山永耕平

（監 事） 川上信二、中川千年

⑤議 事

峰尾事務局長より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状出席2名で本理事会は成立した」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（長岡）

組織、JID関東ユース会定例連絡会開催（11月27日、12月3日）。本部情報委員会・関東合同委員会開催（12月7日）。情報・事業推進委員会開催（12月17日）。12年度に組織を集約したが必ずしもうまくいかなかった。本部と支部の境目、又代議員制度等検討の要ありと報告。

◆中部事業支部（関）

デザイナーズX'mas（12月6日～9日）CCDO協力事業に原田、安藤会員出品。12月度連絡会、明治村西尾部長を迎え、明治村春季展示「新世紀ミニデザイン博」－F. L. ライトとの「対話」－を決定（12月15日）。1月度連絡会（1月19日）等を報告。

◆関西事業支部（佐々木）

総務部会／第5回支部運営部会を開催、理事会、各部会報告及び支部予算案作成（12月14日）。組織部会／賛助会員、ECHO協賛、ACT会員等と交流会開催（11月22日）。研究発表部会／トランスポートーション研究会で交通機関に関するアンケート収集、分析、活用等について検討（11月16日）。事業部会／クリエイティブセッション「ご馳走のデザイン」を実施（JID/DAIKO、12月5日）。特別部会／ECHOプロジェクト「府中デザイナーズBOX」実施（11月19日）。本部教育研究Aの実験教育報告会に参加44名（11月17日）。その他、関西事業支部役員選挙実施（1月21日）開票は1月28日の予定と報告。

◆九州事業支部（山永理事委任出席のため文書にて）

福岡地区例会実施／お話会「21世紀のデザイン教育と留学のこぼれ話」山永会員、及び昨年8月に完成した九州産業大学芸術学部棟を見学並びに交流会を実施

（12月1日）。FUKUOKAデザインリーグ／「第9回賞・プレゼンテーション事業部会」（11月27日）、「2001年福岡デザイン界、シンポジウム及び交流会」（12月12日）、「FDL賞募集」（12月19日）等を実施。11月28日九州事業支部役員選挙結果報告。その他、今後新旧役員会を予定、九州独自のホームページの開設及び若いデザイナーと学生の会「TRYの会」設立等を検討と報告。

◆総務・組織委員会（秋山）

11月に立ち上げた会員拡大キャンペーンの具体的な作業に入った。会員の皆様に意識を持って頂き、各支部の目標が達成できるよう協力を要請した。2001年JID賞贈賞式に協力及び新春交流会を実施。その他新会員規定による名誉会員についてのフォローを行なうと報告。

◆国際・交流委員会（川上）

IPEC21参加国際フォーラムの反省会を兼ねた委員会を開催、フォーラムの要約集を配布。次回のmeet the Worldは「ベルリンの新しい風」としてドイツ研修を終えた安河内会員のお話と、木村理事長、中川理事のIFI・南アフリカ会議の報告を行なう予定。その他インテリア学会の呼びかけによる中国・韓国・日本の国際インテリアデザイン学会中国大会への協力説明に参加、JIDより藤村(国際委員長)、安河内、木村、が出席と報告。

◆情報委員会－インターネット（吉良）

e-mailnewsの発信を2月に予定、会員に対し受信登録案内を送付。その他経済産業省からの公益法人ディスクロージャーに対応するため、JID情報公開の費用見積もり、スケジュール、又ホームページの表紙デザインのリニューアル等報告。

◆情報委員会－出版（吉良）

FROM－JID出版に当たって、執筆者の原稿完了。環境負荷の少ない建材の掲載を58社に依頼、3月中の発行を予定と報告。

◆情報委員会－JIDニュース（吉良）

JIDニュース2002年2・3月号（217号）を1月末原稿締切で2月末発行の予定と報告。

◆教育・研究委員会A（山崎）

実験授業及びシンポジウムの報告資料にまとめる作業を加藤委員長中心に開始。又京都市立の小学校より、来春からの「総合的な学習の時間」にインテリア教育を採用したいとの打診があり今後具体的調整に入ると報告。

◆教育・研究委員会B（須長）

研究活動テーマ、「日常生活周辺におけるインテリア現象・言葉等をシーンとして抽出して、インテリアの今日的状況を考察」に各自収集を行なったものを、ライフスタイル、住環境との関係、影響を分析、又キーワード言語を内容により分布、分類分析を行い図表化

しJIDホームページ等に掲載を予定と報告。

◆教育・研究委員会C（山本）

Humanizing Design展を継続していく方向で、又プロモーション委員会との連携をも考え12月に交流会を行なった。今後JIDと他業種とのコラボレーションも考えていくと報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

アンケートの分析し、まとめの段階に入り、今期中に会員に資料を配布の予定と報告。

◆事業委員会（阪井）

オリジナルMY CHAIRを創るに19名の椅子製作が進み、2月26日上海ツアーに総勢26名で出発の予定と報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

JID主催の第1回OZONE展、(株)リビングデザインセンター、都市基盤整備公団協賛による「インテリアデザイナーとつくる住まい展」を2月14日～3月5日、OZONEリビングデザインギャラリーで開催等を報告。

◆選考委員会（泉）

JID賞展はインテリアスペース部門賞4点、インテリアプロダクト部門奨励賞1点、学生賞部門部門賞2点、奨励賞1点で1月17日～29日OZONE6フロードサイドスクエアで実施中と報告。

(2) 平成13年度収支状況報告（12月末日現在）

平成13年度収支状況報告（12月末現在）について事務局より報告。

(3) その他

・計報 樋口 治（名誉会員・関西事業支部）

平成13年12月13日没 享年85歳

・次回理事会予定

平成13年度年第6回理事会 2002年3月23日（土）

13:30～16:30

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれ了承した。

II 議案

第1号議案 後援・協賛・推薦名義承認の件

事務局が下記4件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「ルイス・バラガン 静かなる革命」

2002年4月20日（土）～7月14日（日）

主催 東京都現代美術館

◎「国際漆展・石川2002」

2002年4月1日（月）～11月末

主催 国際漆展・石川開催委員会

◎「2002建設資材データベース」

主催 財団法人経済調査会

◎「インテリアライフスタイル」

2002年6月19日（水）～21日（金）

主催 メサゴ・メッセフランクフルト（株）

第2号議案 会員入退会承認の件

事務局が下記入退会5件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会（1件）

福田 秀明（関東）推薦人：吉良ヒロノブ・秋山修治

正会員・退会（4件）

米生 滯子・二部 誠司（関東）

高橋 吉美（中部）大場 康博（関東）

第3号議案 議事録署名人選任の件

議長は、須長壮太郎、関里繪子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

平成13年度第6回理事会報告

①会議名：平成13年度第6回理事会

②日時：平成14年3月23日（土）13:30～16:30

③場所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー8F

④出席：（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 山崎 晶

（理事） 秋山修治、泉 修二、川上玲子、

佐々木恵子、中川帛子、

長岡貞夫、山永耕平、山本棟子

（委任出席） 喜多俊之、阪井良種、

須長壮太郎、関 里繪子、

吉良ヒロノブ

（監事） 川上信二、中川千年

⑤議事

峰尾事務局より「理事総数15名中、本人出席10名、委任出席5名で本理事会は成立した」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

I 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（長岡）

代議員会を開催、次期支部長を選出。情報、事業推進、組織の各委員会を開催、次期計画について検討と報告。その他本理事会において長岡理事より理事及び理事会のあり方に発言があり、理事及び理事会は協会の財務、経営その他の問題を抽出して考え討議することが大事であると提言された。

◆中部事業支部（関理事委任出席のため文書にて）

明治村春季展示「新世紀ミニデザイン博」F. L. ライトとの「対話」DM発送。2月度連絡会、「喜多俊之のデザイン」展オープニング（2月16日）。その他、JID中部役員選挙実施（3月）。「中部JID」賞を専門学校3校に授与等を報告。

◆関西事業支部（佐々木）

総務部会・部会長会議、次年度支部活動予算案検討（1月17日）。第6回支部運営部会で理事会、各部会、

選挙結果報告（2月8日）。14・15年度支部委員総会で次期支部長に清家淳一会員を選出（2月27日）。新旧合同運営部会で14・15年度運営組織、担当部長、委員長（案）と14年度事業計画を検討。組織部会・JIDサロン「夏原晃子と岸和田名建築めぐり」を実施（3月3日）。情報部会・ECHO編集会議（2月15日）。3委員会合同、活動状況について（3月13日）。特別部会・交流会1月24日、1月29日実施等を報告。

◆九州事業支部（山永）

役員会を実施、新年度事業－「TRYの会」設立、JID九州展の開催時期、会員拡大、支部会則改訂、支部事務局運営等－について協議。熊本地区例会を開催、JID九州事業支部ホームページの紹介とインターネット講習会、バリアフリー家具、北欧家具見学会実施（ライフ・マイスターにて2月1日）。「FUKUOKAデザインリーグ発表・展示会」デザインスクールキャラバン作品展示、「福岡経済発展賞」受賞作品、「福岡デザイン100賞」受賞作品、「まちがいデザインサーベイ賞」受賞作品等を展示。その他、九州事業支部事務局が14年度から松本 豊会員から前崎彌生会員に移行する予定と報告。

◆総務・組織委員会（秋山）

2002年新年交流会の実施、その他、会員拡大キャンペーンの一環として最近のJID賞応募者等リストアップ入会勧誘を検討と報告。

◆国際・交流委員会（川上）

3月29日に第5回meet the world「パブリックアート&ベルリンの風」を安河内敦子会員のドイツ帰国報告と展覧会を実施予定、その他日本インテリアデザイン学会が「アジア・インテリアデザイン国際シンポジウム」（2002年10月中国・西安）を開催、また作品と論文を募集と報告。

◆情報委員会－インターネット（吉良理事委任出席のため文書にて）

e-mail newsを2月に発信した。今後継続して随時発信と報告。

◆情報委員会－出版（吉良理事委任出席のため文書にて）

FROM-JIDを14年度初めに発行を予定と報告。

◆情報委員会－JIDニュース（吉良）

JIDニュース2002年2・3月号（217号）を3月初めに発行。次号（218号）は4月末原稿締切で5月末発行の予定と報告。

◆教育・研究委員会A（山崎）

インテリア教育の分析・考察を行なう。京都市立の小学校でインテリア教育を採用したいとの要望があり今後調整に入る。実験授業及びシンポジウム内容等を報告資料にまとめる。関連記事はECHO19（JID関西）に掲載予定。又日本インテリア学会に発表の予定があるがJIDとの調整が必要との意見あり、検討すると報告。

◆教育・研究委員会B（須長理事委任出席のため文書にて）

研究活動テーマ、「日常生活周辺におけるインテリア現象・言葉等をシーンとして抽出して、インテリアの今日的状況を考察」の進行状況は前回の継続であるが、委員会の研究成果内容の絞込みを行い、完成原稿をJIDホームページに掲載すべく発注準備を行なった。又収集資料はA4冊子にまとめ協会に保存の予定と報告。

◆教育・研究委員会C（山本）

Humanizing Design展を継続していきたいという方向で内容を検討中と、2年間の活動の反省と意見の交換を今期中に行なう。又今後JIDと他業種とのコラボレーションも考えていくと報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

アンケートの分析が進み、3月はじめに会員、関連団体に報告書を配布と報告。

◆事業委員会（阪井）

「オリジナルMY CHAIRを創るin上海」の椅子製作が進み、2月26日上海ツアーを総勢26名で実施した。来期にはこれらの椅子展を予定と報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

JID主催の第1回OZONE展、(株)リビングデザインセンター、都市基盤整備公団協賛による「インテリアデザイナーとつくる住まい展」をOZONEリビングデザインギャラリーで実施（2月14日～3月5日）、セミナーとも盛況の内に終了。その他平成15年発行予定の名簿、ワーク集及びFROM JIDについて今後検討と報告。

◆選考委員会（泉）

JID賞展はOZONE 6 Fロードサイドスクエアで実施した（1月17日～29日）。来年度もほぼ同時期にOZONEで実施予定、その為にもワーキンググループ等今後至急検討する必要があると報告。

(2) D－8 報告

木村理事長及び秋山理事よりD－8（デザイン8団体関連）の経過が報告され、具体的な対外活動の一環として「D－8」ウェブサイトの開設の方針決定等説明が行なわれた。又これら「D－8」についての詳細報告はJIDニュース等で会員に公開するよう要望があった。

(3) 平成13年度収支状況報告（2月末日現在）

平成13年度収支状況報告（2月末現在）について事務局より報告。

(4) 平成13年度事業報告（案）及び収支決算見込について

上記報告案について事務局より説明。

(5) 平成13年度会費未納状況について

上記について事務局より説明。

(6) その他

・総会までのスケジュール及び上半期スケジュール（案）

上記について事務局より説明。

・訃報 富田卓司（正会員・関西事業支部）

平成14年2月25日没 享年80歳

・次回理事会予定

平成14年度第1回理事会

2002年5月24日(金) 13:30~15:00

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれ了承した。

II 議案

第1号議案 平成14年度事業計画及び予算(案)承認の件

上記案件について木村理事長及び秋山理事より説明。いくつかの要望等があり、それらを考慮すると了承。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記2件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「連続シンポジウム『SECTION29』・『SECTION30』」

2002年2月22日(金)、2月25日(月)

主催 (株)日本商環境設計家協会

◎「第54回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2002」

2002年9月4日(水)~6日(金)

主催 株式会社ビジネスガイド社

第3号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記入退会22件について説明。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会(3件)

竹内 悟(関東)推薦人:佐藤 健一・星 富士子

池田 謙一(関西)推薦人:清家 淳一・安藤 真吾

久原 真人(関東)推薦人:秋山 修治・峰尾 武

賛助会員・入会(1件)

有限会社ダイチシステム(関東)

正会員・退会(14件)

岩合 正仁・佐藤 清子・関口 正巳・細井 一夫・

細見 貴子・嶺 茂信・富岡 悠紀子・中島好裕・

藤塚 光政・高橋 紘生(関東)今村 省治・沖本

弘至・水口 甫(関西)森 宣雄(九州)

賛助会員・退会(4件)

アスワン(株) ニッポ電機(株) (株)竹中工務店 大阪本店

(関西) (株)アトリエ・ジーアンドビー(関東)

第4号議案 議事録署名人選任の件

議長は、長岡貞夫、中川帛子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

九州事業支部事務局が変わりました。

九州事業支部事務局

株式会社コロンバス 前崎 弥生

〒860-0078 熊本県熊本市京町1-14-8-107

TEL 096-324-7594 FAX 096-356-3124

E-mail maesaki@salut-valley.com

九州事業支部事務局就任にあたって

九州事業支部 正会員 前崎弥生

九州事業所の事務局をさせていただくことになりました。

今まで、すべて福岡地区の皆様におんぶにだっこ状態でした。今回は、熊本地区のほうで担当したいと思います。

とはいえ、意気込みはよいのですが、なにも解らない状態ですっかり、前事務局の松本さんや、支部長にもう頼ってる始末です。やっぱり、おんぶに抱っこ状態ですね。

皆様、事務局一年生に良きご指導をおねがいたします。

また、事務局を通じて会の進行などもっと把握できるようになるとおもいます。情報の発信源としてもがんばります。ご協力ください。

COLUMBUS.CO.LTD

1-14-8-107KYOMACHI KUMAMOTO JAPAN

TEL:096-324-7594 FAX:096-356-3124

前崎弥生@株式会社コロンバス

SALUT-VALLEY PROJECT

maesaki@salut-valley.com

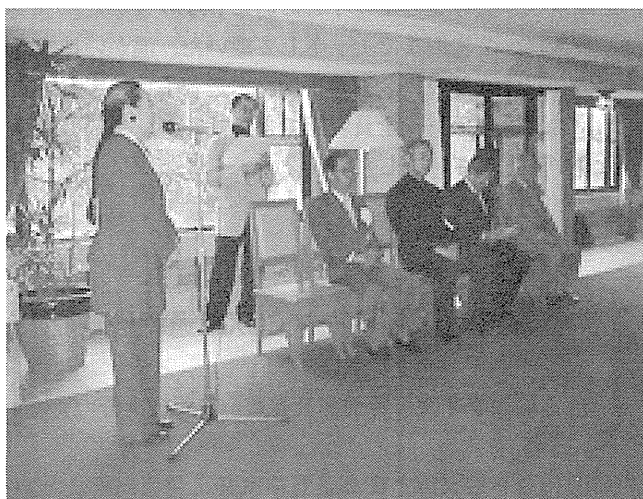
平成14年度支部活動に向けて

関東事業支部支部長 佐藤 健一

関東事業支部では組織体制を見直し、事業の開拓と研究活動を活発に行えるよう新たに委員会を設け、その強化のため経験豊富な会員の方々に顧問としてご参加いただきました。

また、今まで組織委員会に属していた関東ユースの会を強化、支援するためユース統括委員会を新設いたしました。ユースの会員は卒業など様々な理由で半減しましたが、これからは関西アクトとの情報交換や交流を深めるなど魅力あるユースの会の実現を図りたいと思います。支部活動はともすればメンバーが固定的になる傾向があるようで、新しい考えが乏しくなったり、マンネリに陥りやすくなりがちです。

そのような状況を打破するため今年度は支部活動の目標テーマを参加型支部活動とし、これまで活動されていないフレッシュな会員の方々の積極的な参加を期待しております。と同時にそのような会員も含め、会員相互の交流を深めてJIDの社会的地位の向上や地域社会への貢献を目指し、積極的に街へ出て活動するような展開を図っていきたいと考えております。どうぞ、ご支援よろしくをお願いいたします。



オープニングパーティーにて関理事挨拶の様子

会員展について思う

池田慎司

平成14年3月24日（日）から4月7日（日）の2週間、愛知県犬山市にある博物館明治村の帝国ホテル中央玄関（フランク・ロイドライト設計）を会場にJID中部事業支部の会員展が行われました。

3月23日の搬入日の夕方に犬山市長をはじめ、明治村館長ほか関係各所の来賓を招いたオープニングパーティーで展示会がスタートしました。

今回の展示会の主旨はF.Lライトとの「対話」ということで、出展者各自が思い思いの作品を発表しました。20世紀の天才建築家の作品の中で作品展を開催できる喜びと共に、圧倒的なライトの個性とのバランスが取れるのかどうかというプレッシャーの中での作品発表でした。結果は我々の心配をよそに、各所から大変好評をいただきました。出展会員それぞれが共通のテーマで取り組んだ展示会がどういう評価を得るのが一つの課題もありました。出展者の真剣なチャレンジが大成功に終わったと思います。また、各報道機関にも取り上げられJIDメンバーの力量を再確認できる展示会でした。今後も回を重ねてより充実した内容に発展させていきたいという思いをもって最終日の反省会を終えました。



2階会場での会員作品展の様子

元気いっぱいのJID関西を目指して！

関西事業支部 支部長 清家 淳一

JID関西は燃えています。いや益々燃えようとしています。それは会員が楽しくしようとしているからです。

誰に何を頼み本部は何をするのか又本部は何をしたいのか見えてこない（地方の僻か？）。たとえば会員の退会が増えてきている。

会員を集めろ！

今後どのような楽しいことがあるのか？

今後どのようなメリットがあるのか？

今後どのようなボランティアで喜んでもらえるのか？

今後会費はどのように安くなるのか？

今後どのような研究の場があるのか？

今後どのような発表の場があるのか？

今後どのような情報もらえるのか？

今後どのような情報を出せるのか？

今後どのようなフフィードバックがあるのか？

今後の楽しい事のスケジュールと如何に楽しいかが最も重要！

過去の履歴をだしても過去の人達のマスターベーションでしかない（もちろん必要とは思う）。今は記録程度で良い、今後の楽しみも無しに高い会費を払う団体に入れとは口が裂けても言えるものではない。

他の団体との合併、もしくは支部の独立、もしくは解散どれをとっても前向きではない。私は前を向いて走りたいそれは現在の問題点をいち早く決断することです。邪魔なものは切り捨て根から取り除くことです。そうしないと又繁殖します。他の団体より元気の良い団体、誇りをもってJID会員ですといえる協会にしたいものです。

“F.Lライトとの「対話」”展にて中部支部との交流会

関西事業支部 理事 小宮 容一

3月23日、八十常充前支部長の車に奥様、山本紗代子氏、私が乗り込み芦屋を出発、名神の大江津で加藤氏をひらって明治村に向かった。夕刻のオープニングパーティーの2時間余り前に着き、急ぎ村内を見て回った後、パーティーに出席した。

私は、IFI名古屋大会の準備に頃より、中部の会員の



帝国ホテル（明治村）玄関にて

方々とは親しくさせて戴いていて、懐かしく再開しました。また、近年入会の若い会員方々の元気な活躍に関西支部委員として刺激を受けました。当然の事ですが先輩会員の指導と言いますか活力があつてのことと感服しました。

出品・展示の作品は、実に力作ぞろいでした。そう、あのF.Lライトの帝国ホテルのロビーに展示するとなれば、やはり力が入るのは分かります。中部にとっても、協会にとっても良い企画であり、実績になったと思います。パーティーの盛り上がりの中で、次回企画の際には全国規模に広げましょう！との話にもなりました。

最後に、2次回までセットして戴いた、温かい持てなしに、安藤支部長、金田美世氏、木辺智子氏、宇賀敏夫氏、池田慎司氏……全員明記できませんが、中部の皆様ありがとうございました。

府中デザイナーズBOX経過報告

関西事業支部特別部会委員 安藤 真吾

JID関西事業支部と広島県府中家具工業協同組合とのコラボレーションによる新製品開発プロジェクト「府中

デザイナーズBOX」も、この記事が載るころには府中市での展示発表会（5月15、16日）も無事終了していることでしょう。

この取組みは府中家具に永くかかわってこられた千田要宗会員のプロデュースのもとに、府中の家具メーカー15社に対して、JID関西の会員を中心とした15人のデザイナーが個別に対応して新製品の開発を行なうものです。

共同による商品開発は、とかく実験的な作品になりますが、この事業では即戦力として販売可能な商品開発を前提として進めております。また、当プロジェクトの達成感を共有するために、新しい試みとしてこ、事業の達成感を共有するために、これまで何度かデザインスケッチや図面の発表会などを開催して、お互いのコンセプトの確認や情報交換を行なうことによるオープンな活動を行なってきましたが、私たちデザイナーとメーカーがコラボレーションすることにより、府中が変わり「何かが始まりそうな、これまでにない期待感」を全員が抱いています。

冒頭にも述べましたが、この記事を書きながらご覧になる時点では、発表展示会は終わっていますが、間違いなく成功よく終わっていることでしょう。そして、関西事業支部にとって初めてともいえるこのプロジェクトはきっと府中家具メーカーに刺激を与えることでしょう。さらに、私たち参加デザイナー全員は、このプロジェクトが一過性のものではなく、これからも引き続き府中家具の発展に寄与することが出来ますように切に希望しております。

**USD-O【大阪デザイン連合機構】NOW
“天神橋筋商店街” 活性化活動に参加
USD-O常任理事（JID選出） 山崎 晶**

1981年10月発足したUSD-Oは、創立20年を機に名称を“大阪デザイン連合機構”と改め在阪12デザイン団体を核として新たに個人・企業・法人会員を構成員として、昨年新しい第一歩を踏み出しました。USD-Oはデザイン分野と地域社会を結ぶ窓口として、社会的責任を担う立場があると考えます。さまざまな専門分野を通じた多くの人々との、信頼と合意によって結ばれたプロモーション活動によって、新しいデザイン・コミュニティを構築することを第一の目的としています。

残念ながら我が大阪はこのところ元気がありません。経済、文化、スポーツなどいずれの分野からも大きな声が聞こえてきません。でも大阪のエネルギーはまだまだ消えてしまったわけではありません。阪神タイガースを応援する声は大阪の活力を感じさせます。大阪の活力の起爆剤が必要です。

新しいUSD-Oは“大阪を元気付けよう”を合言葉に、そのために何ができるか、一生懸命考え話し合ってきました。

「大阪天満宮」の表参道として古くから大阪の歴史に登場する“天神橋筋商店街”があります。日本最長の商店街で、吉本興業の発祥の地であり、大阪の芸能、文化が栄えた地として話題が尽きることはありません。“なにわ商人”の心意気ややさしさ、そして人情が今も生きています。

すでに“天神橋筋商店街”には地元の人たちによる【町街（まちがい）トラスト】と呼ばれる〔天神・天満計画〕が進行中です。この商店街及び近畿の街の歴史・文化をはじめ有形無形の財産の保全・活性化支援活動を通して、未来に残る街づくりをしようというのが目的です。

このたびUSD-Oではこの【町街（まちがい）トラスト】活動の主旨に賛同して、この街づくりに協力・参加することを考えました。このことが“大阪を元気付けよう”というUSD-Oの活動スローガンの具体化に繋がるものでもあると意見がまとまりつつあります。去る8月25日に合同の“天神橋筋商店街”見学会と講師に商店街理事長を迎えてセミナーを開催しました。

とりあえずは、各団体がそれぞれ独自のアイデアを持ち寄り発表することでスタートします。JID関西事業支部では有志による特別活動として活動してまいります。楽しく、元気に、デザイナーの知恵を大阪の街にぶつけていきたいと考えています。

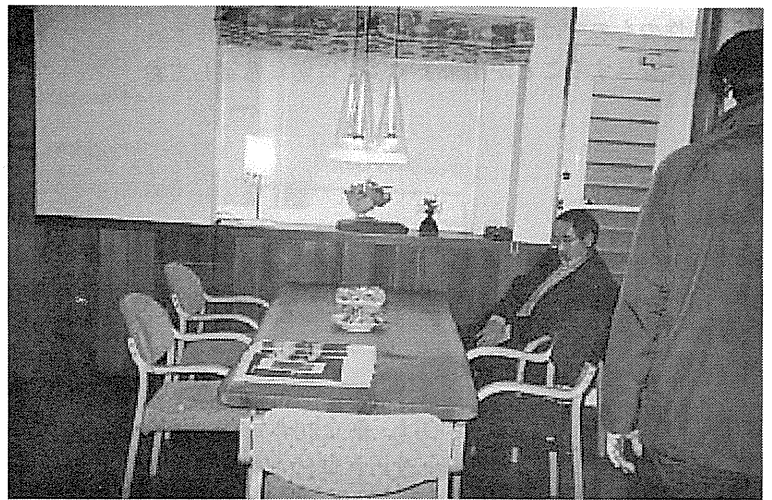
熊本デザイン専門学校にて
ホームページ開設前研修会意見交換会
ライフマイスターモデルルーム見学
(バリアフリー家具・北欧家具)

九州事業支部会員 宮崎 眞里子

熊本デザイン専門学校のすばらしい設備の教室をおかりし、インターネット講習会・ホームページ開設前意見交換会を学校の前畑先生と会員の前崎弥生さんの講師でわきあいあいと楽しく受講致しました。デザイン専門学校のあり方、内容、システムも30年ほど前の我々の受けた教育内容と違うことにびっくりさせられました。

(熊本デザイン専門学校にて)

次に熊本市の東部に位置する、ライフマイスターモデルルームを見学しました。オーナーは東京の田園調布にお住まいで、九州には熊本に初めてモデルルームを出店されました。従来の家具屋さんとはひと味違い広く情趣で素敵で1戸建ての家で、中では家具とともにゆっくり食事やティータイムを楽しんだりしてインテリアとその家具の心地よさを体感していただきたいという新しいシステムのモデルルームで、高齢者と医療の福祉機能とファッション性を心配りしたステキな家具たちです。オーナーの佐藤氏は若い頃デンマークまで家具作りの修行に行き、かの有名なハンスウェグナー氏に弟子入りを申し出られたこともあるほど、家具を一生の仕事にしたいという熱意のある方です。

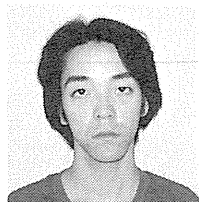


イタリア料理がお上手で、時々お客様と楽しめるそうです。(オーナー手作りだそうです!) ここで一つ一つの家具について詳しく説明できないのが残念ですが、おいしいケーキやteaごちそうさまでした。感謝です。写真を後日郵送します。

(ライフマイスターモデルルームにて)

その後、中華レストラン海華さんに移動して親睦会。行政の事から教育問題にいたるまでいろいろお話が飛び交いとても盛り上がり楽しい懇親会になりました。

皆様の御協力のおかげで有意義な一日を過ごせました。ありがとうございました。



久原真人
埼玉在住
勤務地 (株) ワールドカラー

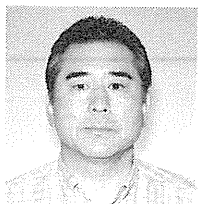
最近のメディアによる、インテリアに対する関心には目覚ましいものがあります。今後はますます専門家としての度量が試されてくるのではないのでしょうか。そんな状況を踏まえ、JIDのスタンスや存在意義をいま一度見直し、明確にしていく必要はあるのではないかと思います。その見地でJIDの活動に参画できればと考えている所存です。



橋爪浩昭
東京在住 勤務先 (株) 織絵

環境とデザインの分野で、ご活躍される先輩方々のグループに入会させて頂いた事を誇りに思っております。

今後はJIDの研究会などにも積極的に参加させて頂きたく考えております。
何卒よろしくお願い申し上げます。



小林 修
愛知在住 勤務先 ジイズ (代表)

私は、50歳を前にして会社を辞め、個人事務所を開設し3年経過しました。現状は大変厳しいですが、仕事を楽しんでいます。

これからの私は次代を育てる事だと感じています。
若いデザイナーの方に伝えたい、「枠からはみ出せ、そして自らの可能性にチャレンジしなさい」と。



大舘愛子
神奈川在住
勤務先 (株) ルドファンインテリア

全てが目紛しく変化する今、真の豊かさとは、心の豊かさに他ならない。

私達を取り巻く環境が、心を育てる。その一端を担っているのが、JIDの諸先輩方が、真摯に向かい会ってデザインされた作品です。日々自らが新しくされつつ、移りゆく時代の中で、変化の中にあっても変わらぬ美を、生活に提案してゆきたい。



池田謙一
大阪在住
勤務先 コクヨ近畿販売(株) 設計部

少し曇りの感じる市場ではありますが、その時こそ、ハード面だけでなくソフト(デザイン)面からも光

を見つけたいと思います。
私、胸に大きな若葉マークを貼り付けたままですが、景気の上向ききっかけになる様なデザイン活動をしていきたいです。



富田恵子
埼玉在住
勤務先 富田建築デザイン事務所

私は入会直後プロモーション委員会に入り企画展のお手伝いをさせて頂きました。組織やイベント準備

の要領も何も解らないままのスタートでしたが、その中で得た経験や情報、多くの会員の方との出会いは今後の自分自身においてプラスになる事と思います。参加する事も利用する事のひとつと考え、多くの人が活躍する場になる事を期待します。



福田秀明
東京在住
勤務先 三井デザインテック(株)

世の中が「モノ」から「コト」へ移行している中、マーチャンダイザー的能力を有し活躍している企業内デザイナーに対する重要性を企業は認識し商品開発への提案業務が積極的に行われ、顧客満足度を向上させる事が出来るよう頑張りたいと思います。その為にもJIDの活動を通して先輩の方々のご意見をお聞きし企業内デザイン業務に役立たせたいと考えておりますので 宜しくお願いいたします。



鈴木ふじゑ
東京在住
勤務先 (有) カン・デザインオフィス

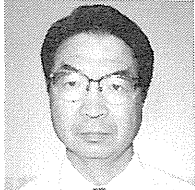
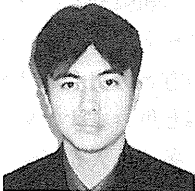
海外に出かけるたびに、美しい街並や、住まい手の美意識の高さに感銘を受けます。

これからは、本当の意味でのデザインの時代を感じながら、一つ一つのプロジェクトを、大切にしていきたいと思います。

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
たけうち さとる 竹 内 悟 会員番号 1202 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社シンコー 札幌市豊平区平岸1条17丁目8番36号 〒062-0931 TEL 011-813-1260 FAX 011-813-4374 sapporo@sinko-arc.co.jp 東京都港区白金4-6-6 ニュー白金マンション205 〒108-0072 佐藤 健一・星 富士子
いけだ けんいち 池 田 謙 一 会員番号 1203 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	コクヨ近畿販売株式会社 大阪府大阪市中央区博労町1-3-17 〒541-0059 TEL 06-6262-4137 FAX 06-6262-2823 大阪府高槻市南平台4-10-17 〒569-1042 TEL・FAX 0726-95-9557 清家 淳一・安藤 真吾
くはら まこと 久 原 真 人 会員番号 1204 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	埼玉県鴻巣市大間2-11-33 〒365-0054 TEL 048-597-0076 同上 秋山 修治・峰尾 武

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

●賛助会員

会 員 名	住 所 及 び 担 当 者
有限会社ダイチシステム 会員番号 3169	担当者：代表取締役 鈴木 栄作 住 所：東京都江東区塩浜2-17-7 〒135-0043 TEL 03-3467-1185 FAX 03-3647-2314

2002/5~6

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報（2002年通巻218号） 2002年5月31日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集／本部情報委員会 制作／be-one